



トヨタ ウェルキャブシリーズ



ウェルキャブ 助手席回転チルトシート車
取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

SIEN TA



1 安全・安心のために

お客様に必ずお読みいただきたいこと

2 助手席回転
チルトシート

助手席回転チルトシートに関する説明

3 手動車いす用
固定装置・収納装置
(電動式)

手動車いす用固定装置・収納装置に関する説明

4 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

5 点検・整備項目

定期点検整備についての説明

イラスト目次	4
本書の見方	6

1 安全・安心のために

1-1. 安全なドライブのために	
助手席回転チルトシートについて	8
車いす・手動車いす用収納装置（Bタイプ）の固定について	12

2 助手席回転チルトシート

2-1. 助手席回転チルトシート	
助手席回転チルトシートの調整	14
ヘッドレスト	17
アームレスト	19
正しい乗車姿勢	20

2-2. 操作のしかた

助手席回転チルトシートの操作をするときは	21
助手席回転チルトシートを車外に出すときは	25
助手席回転チルトシートを車内にもどすときは	30

2-3. セカンドシート

助手席側セカンドシートについて	35
-----------------------	----

3 手動車いす用固定装置・収納装置（電動式）

3-1. 手動車いす用固定装置・収納装置（電動式）	
車いすの収納・固定前の準備	38
車いす固定ベルト	41
ガードマット	45
手動車いす用収納装置（電動式）（Bタイプ）	46

3-2. 車いすの収納・固定

収納のしかた	51
固定・解除のしかた	54

3-3. ラゲージルーム内装備

デッキボードを開閉するときは	56
----------------------	----

4 万一の場合には

4-1. パンクしたときは

応急用タイヤの取り出し（Bタイプ）	58
-------------------------	----

4-2. 故障かな？とお考えになる前に

ヒューズの交換（Bタイプ）	59
助手席回転チルトシートが動かないときは	61
助手席回転チルトシートが車外に出た状態で動かないときは	62
手動車いす用収納装置（電動式）が動かないときは（Bタイプ）	66

5 点検・整備項目

5-1. 点検・整備項目

定期点検整備 68

さくいん

こんなときは

(症状別さくいん) 70

五十音順さくいん 72

1

2

3

4

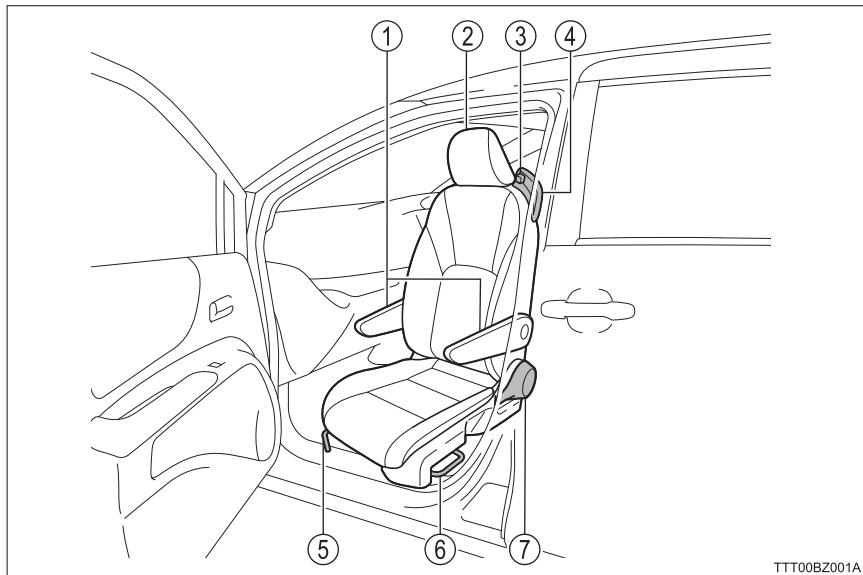
5

本書はウェルキャブ 助手席回転チルトシート車の装備について記載しています。車両全体の取り扱い方法や注意事項などは、必ず別冊の標準車取扱書をお読みください。

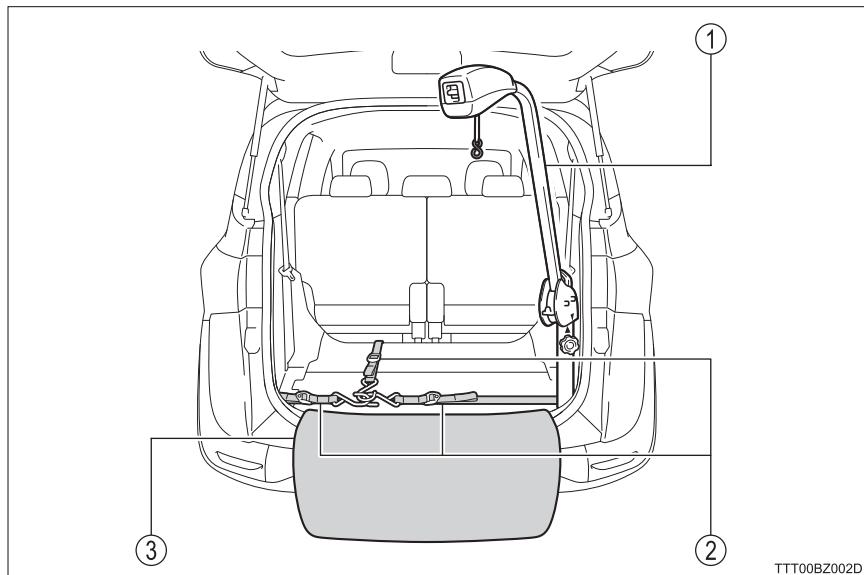
ただし、ウェルキャブ装備により、お車と標準車取扱書の仕様や機能が一致しない場合がありますのでご了承ください。

イラスト目次

■ 助手席回転チルトシート (A タイプ、B タイプ)



- | | |
|--------------------|----------|
| ① アームレスト | P.19 |
| ② ヘッドレスト | P.17 |
| ③ チルトボタン | P.27, 30 |
| ④ チルトグリップ | P.27, 30 |
| ⑤ スライドレバー | P.14 |
| ⑥ 回転スライドレバー | P.25, 31 |
| ⑦ リクライニングレバー | P.14 |

■ 手動車いす用固定装置 (A タイプ、B タイプ)**■ 手動車いす用収納装置 (電動式) (B タイプ)**

- ① 手動車いす用収納装置 (電動式) P.46
- ② 車いす固定ベルト P.41, 54
- ③ ガードマット P.45

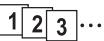
本書の見方



警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



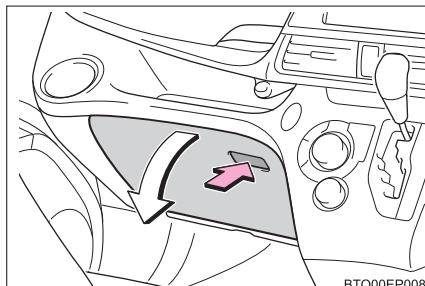
注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

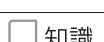
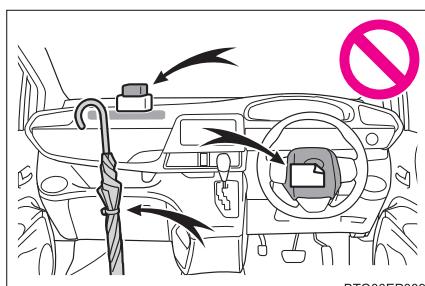
➡ 押す・まわすなど、していたい操作を示しています。

➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

🚫 “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知つておくと便利なことを説明しています。

■ハイブリッド車特有の記載について

ハイブリッド車特有の部品名称やスイッチ名称を “〈〇〇〇〉” で表示しています。〈補機バッテリー〉など)

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全なドライブのために	
助手席回転チルトシートについて	8
車いす・手動車いす用 収納装置（Bタイプ）の 固定について	12

助手席回転チルトシートについて

本書におけるウェルキャブ 助手席回転チルトシート車の操作はすべて介助の方が行ってください。

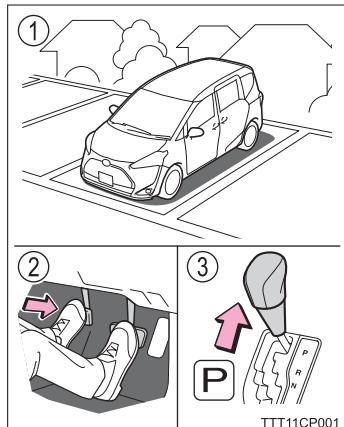
この項目では、助手席回転チルトシートについて、必ず守っていただきたいことをまとめています。

⚠ 警告

■操作および車いすを収納するときは

不整地や傾斜地で操作しないでください。
車いす・助手席回転チルトシートからの転落や、車いす収納時に車いすが傾いて体や車両にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ① 平坦な場所で操作
- ② パーキングブレーキを確実にかける
- ③ シフトレバーを P の位置にする



■操作する前に

助手席ドアを全開にしてください。
全開にしないと助手席回転チルトシート操作時、シート乗車の方の足が助手席ドアと接触し、けがをするおそれがあります。



⚠ 警告

■ チャイルドシートの装着禁止

助手席回転チルトシートにチャイルドシートを装着しないでください。

装置の破損や、お子さまが重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 乗り降りするときは

乗り降りする方の頭上の十分な安全確認をしてください。

ドア開口部に頭部をあて、けがをするおそれがあります。

- ① 乗車時
- ② 降車時



⚠ 警告

■操作するときは

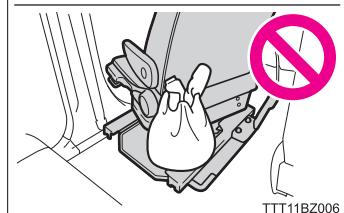
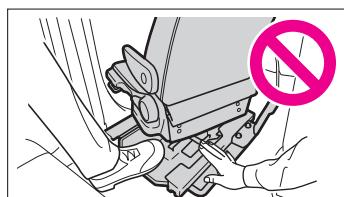
- 正しい姿勢で乗車してください。
(→ P.20)
- 乗員の体について十分な安全確認をしてください。
助手席回転チルトシートを回転・チルトさせるときに、頭や手足をドア開口部にあてるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ① ドア開口部と頭部の接触に注意する
- ② インストルメントパネルに手や足をぶつけないように注意する
- ③ ドア開口部と助手席回転チルトシートのすき間に手を挟まれないように注意する
- ④ インストルメントパネルと助手席回転チルトシートのすき間に挟まれないように注意する
- ⑤ ドアやドア開口部と足の接触に注意する

- 助手席回転チルトシート作動時、シートの下および周辺に手足や荷物を入れないでください。
手足を挟まれかけをしたり、荷物や助手席回転チルトシートを損傷するおそれがあります。



TTT11BZ005C



TTT11BZ006

⚠ 警告

■ 強風時の助手席ドアについて

強風時、助手席ドアが閉まることがあります。

助手席ドアが助手席回転チルトシートおよび乗員にあたり、けがをするおそれがありますので、注意してください。



TTT11BZ007

■ 助手席回転チルトシートを車内にもどしたときは

助手席回転チルトシートを前後左右にゆすり、シートが確実に格納位置で固定されているか確認してください。

確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因になって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



TTT11BZ008

■ 助手席回転チルトシート乗員のシートベルトの着用

走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→標準車取扱書の「シートベルト」)

正しく着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



TTT11BZ009

車いす・手動車いす用収納装置（B タイプ）の固定について

車いす・手動車いす用収納装置の固定について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

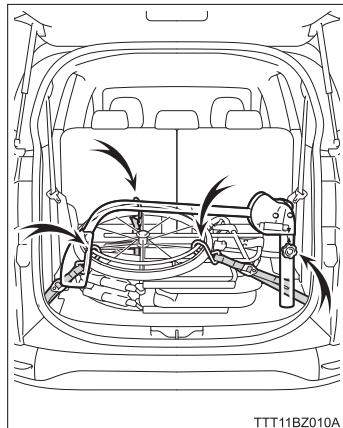
⚠ 警告

■車いす・手動車いす用収納装置の固定確認

確実に固定されているか確認してください。

急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに車いすが車室内にとび込んだり、車いすや手動車いす用収納装置のアームが動いて車両や車いすが損傷するなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

また、車いす固定ベルトにねじれがないことも確認してください。



TTT11BZ010A

助手席回転チルトシート

2

2-1. 助手席回転チルトシート

助手席回転チルトシートの 調整	14
ヘッドレスト	17
アームレスト	19
正しい乗車姿勢	20

2-2. 操作のしかた

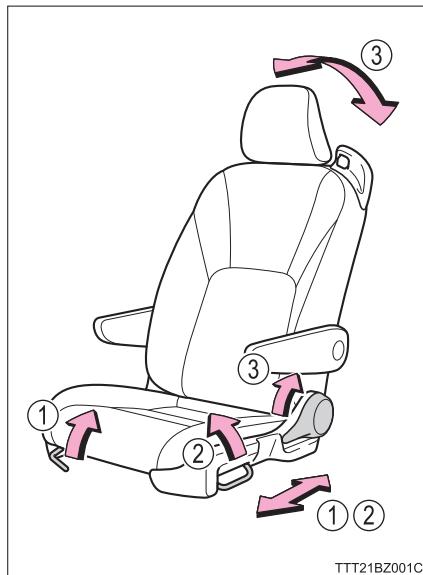
助手席回転チルトシートの 操作をするときは	21
助手席回転チルトシートを 車外に出すときは	25
助手席回転チルトシートを 車内にもどすときは	30

2-3. セカンドシート

助手席側セカンドシートに ついて	35
---------------------	----

助手席回転チルトシートの調整

- ① 前後位置調整
(スライドレバー)
- ② 前後位置調整
(回転スライドレバー)
- ③ リクライニング調整
(リクライニングレバー)



TTT21BZ001C

□ 知識

■ 助手席回転チルトシートの前後スライド量について

回転開始位置から後方に 90mm 移動することができます。

■ 助手席回転チルトシートのリクライニング角度について

- 助手席回転チルトシートのリクライニング角度は標準車の助手席シートとは異なります。
- 助手席回転チルトシートは車両前方にリクライニングしません。

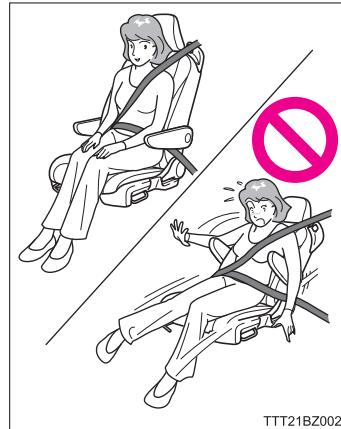
■ 回転スライドレバーについて

助手席回転チルトシートがいちばん前に移動した状態で回転スライドレバーを操作すると、シートが回転します。 (→ P.26)

⚠ 警告

■助手席回転チルトシート調整について

- 助手席回転チルトシートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- 背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。
- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



TTT21BZ002

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニングレバーを操作してください。
背もたれを押さえずにレバーを操作すると背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。
- 調整後は、助手席回転チルトシートを前後左右にゆすり、シートが確実に固定されているか確認してください。
確実に固定されていないと、走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因になって重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 助手席ドアが閉まっている状態では回転スライドレバーで助手席回転チルトシートの前後位置調整をしないでください。
いちばん前に移動したときにシートが回転して助手席ドアにあたり、けがをしたりシートおよび助手席ドアを損傷するおそれがあります。

 **注意****■ 故障などを防ぐために**

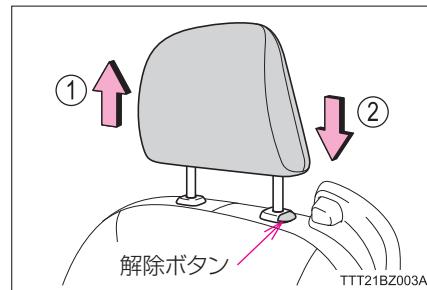
チルトボタン・回転スライドレバー・スライドレバーを同時に操作しないでください。

正しい位置に助手席回転チルトシートが移動しなくなるおそれがあります。

ヘッドレスト

解除ボタンを押しながら操作します。

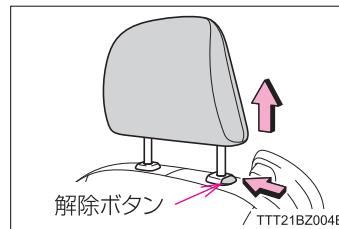
- ① 上げる
- ② 下げる



知識

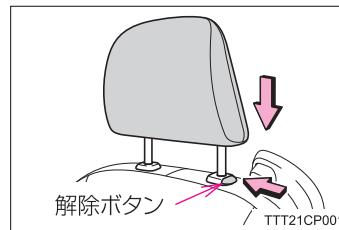
■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



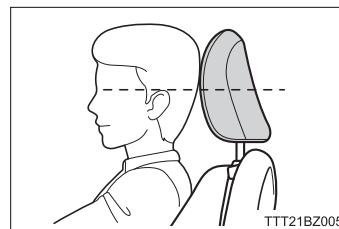
■ヘッドレストを取り付けるときは

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。



⚠ 警告**■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

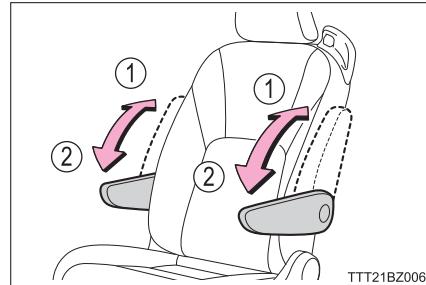
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

アームレスト

助手席回転チルトシートの回転およびチルト操作は、アームレストをいっぱいまで下げる状態で行います。

- ① 上げる
- ② 下げる



□ 知識

■ シートベルトの着用について

アームレストを上げた状態にすると、シートベルトの着用が容易になります。

⚠ 警告

■ シートベルトを着用するときは

シートベルトは腰部ベルトをアームレストの下に通して正しく着用してください。

アームレストにかかった状態で着用すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



正しい乗車姿勢

次のように正しい姿勢で乗車してください。

- ① 背もたれをいちばん起こした状態で背もたれにもたれ、ヘッドレストに頭をつけて座る
- ② アームレストを下げ、両腕をアームレストの内側におく
- ③ 両ひざをそろえて助手席回転チルトシートの内側に収まるよう に座る
- ④ 足が助手席回転チルトシートとボデーのあいだに挟まれないよう にする

介助の方が足を支えてください。



⚠ 警告

■ 乗車のときは

- 助手席回転チルトシートに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合は、足や頭がボデーにあたり、座った状態でのシートの回転が困難になりますので、ご注意ください。
- 助手席回転チルトシート作動時、頭上や手足に注意してください。頭をドア開口部にあてたり、ひざや腕をインストルメントパネルやドア開口部にあて、けがや思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(→ P.10)

助手席回転チルトシートの操作をするときは

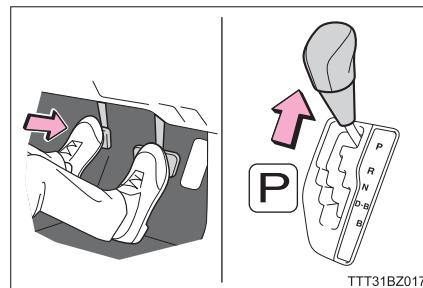
助手席回転チルトシートは、シートを車外に回転後、下にチルトさせることができます。

操作はすべて介助の方が行ってください。

格納後はシートを前後左右にゆすり、確実に格納位置で固定されたことを確認してください。

助手席回転チルトシートを操作する前に

- 1 安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPの位置にする



- 2 助手席回転チルトシートの周囲および作動範囲内に、人や荷物がないことを確認する

- 3 助手席回転チルトシートのシートベルトをはずす

- 4 助手席回転チルトシートの回転・チルト操作をするときは、シートを次の状態に調整する

① ヘッドレストをいちばん下げる位置にする

② 背もたれをいちばん起こした位置にする

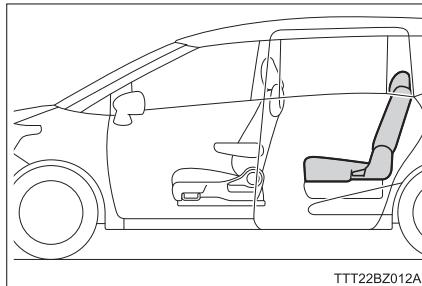
③ アームレストをいちばん下げる位置にする



- 5 車両が次の状態になっていることを確認する

- ・グローブボックスのフタが閉まっていること
- ・サンバイザーが格納してあること
- ・買い物フックに荷物がかかっていないこと

- 6 セカンドシートがタンブルされているときは、助手席側セカンドシートを着座状態にする
(→標準車取扱書の「セカンドシート」)



▲警告

■助手席回転チルトシートを操作する前に

- 助手席回転チルトシートに深く着座できない方、ひざや首が曲がらない方の場合は、足や頭がボデーにあたり、座った状態でのシートの回転が困難になりますのでご注意ください。
- 必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にしてください。(→ P.8)
車いすや助手席回転チルトシートから転落するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 助手席回転チルトシートのシートベルトが確実にはずしてあること、およびシートベルトがアームレストに引っかかっていないことを確認してください。
シートベルトがアームレストに引っかかったままシートを操作すると、シートベルトが体にかかってけがをしたり、シートが故障するおそれがあります。

⚠ 警告

■助手席回転チルトシートを操作するときは

- 助手席回転チルトシート乗車の方の頭上や手足に注意してください。
頭をドア開口部にあてたり、ひざや腕をインストルメントパネルやドア開口部にあてるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。 (→ P.10)



- 助手席回転チルトシート作動時、シートの下および周辺に手足や荷物を入れないでください。
手足を挟まれけがをしたり、荷物や助手席回転チルトシートを損傷するおそれがあります。 (→ P.10)
- 助手席回転チルトシートを持って操作してください。
シートの下に手を入れると、手を挟まれけがをするおそれがあります。
- 助手席回転チルトシートのチルトグリップを持って操作する場合、勢いよく操作しないでください。
ボデーと腕があたり、けがをするおそれがあります。
- 必ずアームレストをいちばん下げた位置で使用してください。
乗車姿勢が不安定になったり、転落のおそれがあります。
- グローブボックスのフタを閉めてください。
助手席回転チルトシート乗車の方の腕や足がフタにあたってけがをしたり、フタが破損するおそれがあります。
- サンバイザーを格納してください。
サンバイザーに頭やヘッドレストをあてるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■強風時の助手席ドアについて

→ P.11

■チャイルドシートの装着禁止

→ P.9

⚠ 注意

■ 故障・破損などを防ぐために

- チルトボタン・回転スライドレバー・スライドレバーを同時に操作しないでください。
正しい位置に助手席回転チルトシートが移動しなくなるおそれがあります。
- 助手席回転チルトシートを操作する前に、可動部周辺に障害物がないことを確認してください。
障害物とシートがあたり、破損するおそれがあります。
- 買い物フックに荷物がかかったまま、操作しないでください。
助手席回転チルトシートと荷物があたり、破損するおそれがあります。
- 助手席側セカンドシートが折りたたまれた状態で、助手席回転チルトシートを操作しないでください。
助手席回転チルトシート回転時、助手席側セカンドシートにあたり、助手席回転チルトシートおよび助手席側セカンドシートが損傷するおそれがあります。

助手席回転チルトシートを車外に出すときは

- ① 助手席ドアを全開にする
- ② 操作前に、次の状態を確認する

- ・助手席回転チルトシートに乗車している方が正しい乗車姿勢であること
(→ P.20)
- ・助手席回転チルトシートでシートベルトを着用していないこと
- ・助手席回転チルトシートの状態 (→ P.21)
- ・車両の状態 (→ P.21)
- ・助手席側セカンドシートの状態 (→ P.22)
- ・助手席側セカンドシート同乗者の安全

- ③ 回転スライドレバーを引き上げたままチルトグリップを持ち、シートをいちばん前まで移動させる



4 助手席回転チルトシートを中間ロック位置まで回転させる

- ① 回転スライドレバーを引き上げてロックを解除する
シートが動き始めたら、回転スライドレバーから手を離します。
- ② チルトグリップを持ち、中間ロック位置までシートを回転させる
シートが回転完了位置でロックしたことを確認します。



5 助手席回転チルトシート乗車の方の足を車外に出す

介助の方がシート乗車の方の足を外側に出してください。



6 助手席回転チルトシートを回転完了位置まで回転させる

- ① 再度回転スライドレバーを引き上げ、ロックを解除する

シートが動き始めたら、回転スライドレバーから手を離します。

- ② チルトグリップを持ち、ロックする位置まで回転させる

シートが回転完了位置でロックしたことを確認します。



7 助手席回転チルトシート乗車の方が背もたれにもたれ、ヘッドレストに頭をつけた状態で座っていることを確認する (→ P.20)

8 助手席回転チルトシートを下にチルトさせる

- チルトボタンを押しながらチルトグリップを持ち、車外方向に引き出します。

- シートが動き始めたらチルトボタンから手を離します。

- 下にチルトが完了するとシートがロックし、シート乗車の方は立ち上がりやすくなります。



 知識**■助手席回転チルトシートの回転操作について**

- 助手席回転チルトシートの前後位置がいちばん前以外の位置では、シートを回転させることはできません。
- 助手席回転チルトシートを回転させるときは、シート回転方向に力を加えた状態で回転スライドレバーを引かないでください。回転スライドレバーおよびシートの引っかかりが発生し、シートが回転させられません。
- 回転スライドレバーを操作したままだと助手席回転チルトシートがロックされません。シートが動き始めたら、回転スライドレバーから手を離してください。
- 助手席回転チルトシートを車外に回転させるときは、左手を回転スライドレバーに添え、右手でチルトグリップを車両前方に押しながら回転させると操作が容易になります。
- 人が乗った状態で助手席回転チルトシートを車外に出すとき、回転完了位置まで回転させる前にチルトボタンを押すと、シートを回転させている途中で下に少しチルトすることがあります。故障ではありません。そのままシートを回転完了位置まで回転させ、下にチルトさせてください。

■助手席回転チルトシートのチルト操作について

- 助手席回転チルトシートが車外の回転完了位置まで回転していないと、シートを下にチルトさせることができません。
- 助手席回転チルトシートが車外の回転完了位置より少し手前で下にチルトさせようとすると、シートが下にチルト可能であると同時に、回転スライドレバーを操作しなくてもシートが回転できてしまいますが、故障ではありません。万一、シートが下に少しチルトした状態でシートが回転してしまったときは、いったんチルトをもどし、シートを車外の回転完了位置まで回転させてから、再度チルト操作をしてください。
- チルトボタンを押したままだと助手席回転チルトシートがロックされません。シートが下にチルトし終わる前に、チルトボタンから手を離してください。
- チルトボタンをしっかりと押さずに助手席回転チルトシートを下にチルトさせると、シートが途中で停止することがあります。下にチルトをしている途中でシートが停止したときはチルトボタンをしっかりと押し直し、チルト操作を続けてください。

⚠ 警告

■ 助手席回転チルトシートを車外に出す前に

- 必ず助手席側セカンドシートの同乗者の安全を確認してください。
- 必ず助手席ドアを全開にしてください。
全開にしないと助手席回転チルトシート操作時、シート乗車の方の足が助手席ドアと接触し、けがをするおそれがあります。(→ P.8)

■ 助手席回転チルトシートを車外に出すときは

- 助手席回転チルトシートを勢いよく回転させたり傾けたりしないでください。
助手席ドアアやドア開口部などにシート乗車の方の頭や足があたり、けがをするおそれがあります。
- 回転スライドレバーとチルトボタンを同時に操作しないでください。
チルトボタンを押したまま助手席回転チルトシートを回転させると、回転完了後、シートが突然傾き、シートから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートが動き始めたら回転スライドレバーから手を離し、中間ロック位置でシート乗車の方の足を車外に出してください。
足が車内に残ったままシートを回転させると、けがをするおそれがあります。

■ チルト操作時の乗車姿勢について

チルト操作時は助手席回転チルトシート乗車の方が背もたれにもたれ、頭をヘッドレストにつけていることを確認してください。(→ P.20)

- シートから背中および頭が離れた状態でチルト操作をすると、頭をドア開口部にあてたり、降車時、姿勢が不安定になり、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - シート前端に座っていると機構上、チルトボタンが固くて押せなくなります。
 - ・ 正しい乗車姿勢で座ってください。
 - ・ 正しい乗車姿勢で座ることが困難な場合は、チルトをもどす方向にチルトグリップを押しながら、チルトボタンを押してください。
- この場合、シートが急に下にチルトし、シート乗車の方が転落するなど重大な傷害を受けるおそれがありますので、操作時は十分注意してください。

⚠ 注意

■ 故障や損傷を防ぐために

助手席回転チルトシートを車外に出したまま放置しないでください。
特に炎天下・雨天・寒冷時などにおいて、カバー類の変形や凍結、錆び付きなどのおそれがあります。

助手席回転チルトシートを車内にもどすときは

- 1 助手席回転チルトシートが下にチルトした状態で確実にロックされていることを確認する
- 2 操作前に、次の状態を確認する
 - ・助手席ドアが全開になっていること
 - ・助手席回転チルトシートの状態 (→ P.21)
 - ・車両の状態 (→ P.21)
 - ・助手席側セカンドシートの状態 (→ P.22)
 - ・助手席側セカンドシート同乗者の安全
- 3 助手席回転チルトシートに正しい乗車姿勢で座る (→ P.20)
背もたれにもたれ、ヘッドレストに頭をつけた状態で座ります。
- 4 助手席回転チルトシートのチルトをもどす
 - ・チルトボタンを押しながらチルトグリップを持ち、車内方向に押し込みます。
 - ・シートが動き始めたらチルトボタンから手を離します。
 - ・チルトをもどし終わったら、シートを押し込み、確実にロックしたことを確認します。



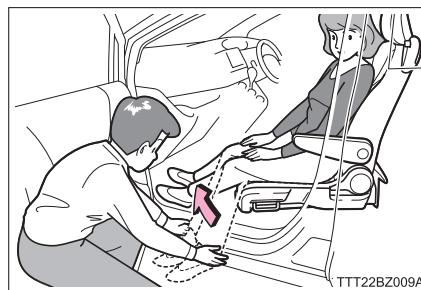
5 助手席回転チルトシートを中間ロック位置まで回転させる

- ① 回転スライドレバーを引き上げてロックを解除する
シートが動き始めたら、回転スライドレバーから手を離します。
- ② チルトグリップを持ち、中間ロック位置までシートを回転させる



6 助手席回転チルトシート乗車の方の足を車内に入れる

介助の方がシート乗車の方の足を車内に入れてください。



7 助手席回転チルトシートを車内に回転させ、格納する

- ① 回転スライドレバーを引き上げてロックを解除する
シートが動き始めたら、回転スライドレバーから手を離します。
- ② チルトグリップを持ち、格納位置までシートを回転させる
シートを前後左右にゆすり、格納位置で確実にロックしたことを確認します。



8 必要に応じて助手席回転チルトシートの調整 (→ P.14 ~ 19) をし、走行前に必ずシートベルトを着用する (→ P.11)

正しくシートベルトを着用していることを介助の方が確認してください。

9 助手席ドアを閉める

□ 知識

■ 助手席回転チルトシートのチルト操作について

- シート前端に座っているとチルトがもどしにくくなります。正しい乗車姿勢で座ってください。
- チルトボタンを押したままだと助手席回転チルトシートがロックされません。シートのチルトがもどりきる前に、チルトボタンから手を離してください。
- チルトボタンをしっかりと押さずに助手席回転チルトシートのチルトをもどし始めると、シートが途中で停止することがあります。チルトをもどす途中でシートが停止したときはチルトボタンをしっかりと押し直し、チルト操作を続けてください。
- 助手席回転チルトシートに人が乗っていない状態でチルトボタンを押すとゆっくりチルトがもどります。

■ 助手席回転チルトシートの回転操作について

- 助手席回転チルトシートはチルトをもどし終わり、ロックされた位置以外では、回転させることはできません。
- 助手席回転チルトシートを車内に回転させている途中で停止した場合、チルトをもどし終わっていない可能性があります。チルトボタンを押し、チルトをもどし終わるまでシートを押し込み、確実にロックさせてください。シートのチルトをもどせない場合、再度車外に回転させてからチルトをもどしてください。
- 回転スライドレバーを操作したままだと助手席回転チルトシートがロックされません。シートが動き始めたら、回転スライドレバーから手を離してください。
- 助手席回転チルトシートを車内に回転させるとときは、左手を回転スライドレバーに添え、右手でチルトグリップを車両後方に引きながら回転させると操作が容易になります。

■ 助手席回転チルトシートの前後位置調整について

助手席回転チルトシートが車内に完全に回転していないと、シートの前後位置調整をすることができません。

⚠ 警告

■ 助手席回転チルトシートを車内にもどす前に

- 必ず助手席側セカンドシートの同乗者の安全を確認してください。
助手席回転チルトシートを車内にもどすとき、シートと車両のあいだに足を挟まれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- 必ず助手席ドアが全開になっていることを確認してください。
全開になつてないと助手席回転チルトシート操作時、シート乗車の方の足が助手席ドアと接触し、けがをするおそれがあります。 (→ P.8)

■ 助手席回転チルトシートを車内にもどすときは

- 助手席回転チルトシートのチルトをもどすときは、チルトボタンをしっかりと押してからシートのチルトをもどしてください。
チルトをもどす方向に力を加えた状態だと、チルトボタンが固くて押せなくなったり、突然チルトがもどり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 助手席回転チルトシートを勢いよく押し込んだり回転させたりしないでください。
シート乗車の方がドア開口部などにあたり、けがをするおそれがあります。

■ チルト操作時の乗車姿勢について

チルト操作時は助手席回転チルトシート乗車の方が背もたれにもたれ、頭をヘッドレストにつけていることを確認してください。 (→ P.20)

■ 助手席回転チルトシートを車内にもどしたときは

→ P.11

⚠ 注意

■ 故障や損傷を防ぐために

助手席回転チルトシートに乗車するときはゆっくりと座ってください。
飛び乗るなど勢いをつけて座ると、シートが故障したり、ドア開口部と干渉して損傷するおそれがあります。

助手席側セカンドシートについて

助手席側セカンドシートをタンブルおよび着座状態にもどす前に、次のことを行ってください。

助手席側セカンドシートをタンブルおよび着座状態にもどす前に

- 1 助手席回転チルトシートをいちばん前までスライドさせる (→ P.14)
- 2 助手席回転チルトシートの背もたれをいちばん起こした位置にする (→ P.14)

以降の操作および運転席側セカンドシートは標準車と同様です。(→標準車取扱書の「セカンドシート」)

□ 知識

■ 助手席回転スライドシートの後方リクライニングについて

助手席側セカンドシートタンブル後、助手席回転チルトシートの背もたれを後方に少しだけリクライニングさせることができます。

- 助手席側セカンドシートにあたらないことを確認しながら、ゆっくりと操作してください。
- 助手席側セカンドシートを着座状態にもどすときは、必ず助手席回転チルトシートの背もたれをいちばん起こした状態にもどしてから操作してください。

△ 注意

■ 破損を防ぐために

- シートの破損を防ぐため、次の状態のとき、助手席側セカンドシートのタンブル・着座状態にもどす操作をしないでください。
 - ・ 助手席回転チルトシートが後方にスライドした状態
 - ・ 助手席回転チルトシートが後方リクライニングした状態
- 助手席側セカンドシートタンブル時、助手席回転チルトシートの背もたれを後方リクライニングするときは、助手席側セカンドシートにあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

勢いよく後方リクライニングさせると助手席回転チルトシートおよび助手席側セカンドシートが破損するおそれがあります。

手動車いす用固定装置・ 収納装置（電動式）

3

3-1. 手動車いす用固定装置・ 収納装置（電動式）

車いすの収納・固定前の 準備	38
車いす固定ベルト	41
ガードマット	45
手動車いす用収納装置 (電動式) (B タイプ)	46

3-2. 車いすの収納・固定

収納のしかた	51
固定・解除のしかた	54

3-3. ラゲージルーム内装備

デッキボードを 開閉するときは	56
--------------------------	----

車いすの収納・固定前の準備

A タイプと B タイプでは車いすの収納・固定方法が異なります。お乗りのお車に該当するページを参照してください。

◆ A タイプ：手動車いす用固定装置

→ P.38 ~ 45, 51 ~ 55

ラゲージルーム内に収納した車いすをベルトで固定できます。

◆ B タイプ：手動車いす用固定装置・手動車いす用収納装置（電動式）

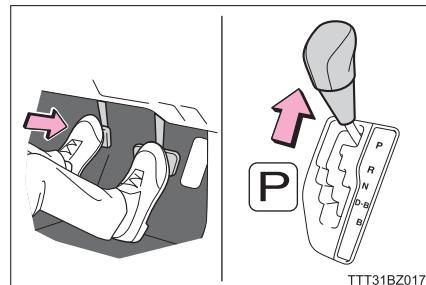
→ P.38 ~ 55

- 手動車いす用収納装置は 30kg まで吊り上げることができ、車いすのラゲージルーム内への出し入れを補助します。
- ラゲージルーム内に収納した車いすをベルトで固定できます。

車いすを出し入れする前に

- 1 安全で平坦な場所に停車し、パークリングブレーキをかけ、シフトレバーを P の位置にする

B タイプにお乗りの方は、エンジンをかけたまま（ハイブリッドシステムを作動状態のまま）にしておきます。



- 2 バックドアを全開にする

- 3 サードシートを格納する（→標準車取扱書の「シートアレンジ」）

- 4 セカンドシートの背もたれをいちばん起こした位置にする（→標準車取扱書の「セカンドシート」）

□ 知識

■ 収納可能な車いすのサイズ

収納可能な車いすは下表のサイズのものになります。

全高	全長	折りたたみ幅	重量*
			
800mm 以下	1000mm 以下	350mm 以下	30kg 以下

*：重量は手動車いす用収納装置での吊り上げが可能な重さです。

■ バックドアについて

全開にしないと、車いす収納時、バックドアと車いすがあたり、車いすの収納が困難になります。

■ サードシートについて（B タイプ）

サードシートを格納およびもどす操作をするときは、手動車いす用収納装置のアームをラゲージルーム外に回転させると、サードシートが操作しやすくなります。（→ P.46）

■ 乗車人数について

車いすを収納・固定するとき、サードシートを格納状態にするため、乗車人数が次のようになります。

FF 車 5 名
4WD 車 4 名

⚠ 警告

■車いすを収納・固定するときは

- 必ず平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPの位置にしてください。（→ P.8）
車いすが傾いて体や車両にあたるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- セカンドシートの背もたれを起こすときは、背もたれを押さえながらリクライニングレバーを引いてください。
背もたれを押さえずにレバーを操作すると背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■損傷を防ぐために

- 車いすを収納する前にラゲージルーム内に荷物がないことを確認してください。
車いすの収納が困難になるばかりでなく、荷物や車いすを損傷するおそれがあります。

■バッテリー〈補機バッテリー〉あがりを防ぐために（B タイプ）

- 手動車いす用収納装置の操作をするときは、エンジンをかけて〈ハイブリッドシステムを作動状態にして〉おいてください。
エンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止した状態で操作すると、バッテリー〈補機バッテリー〉あがりの原因になります。

■ヒューズ切れを防ぐために（B タイプ）

- 手動車いす用収納装置の操作をするときは、運転席側パワーウィンドウの操作をしないでください。
手動車いす用収納装置のヒューズは運転席側パワーウィンドウのヒューズと共にしているため、同時に操作するとヒューズが切れるおそれがあります。

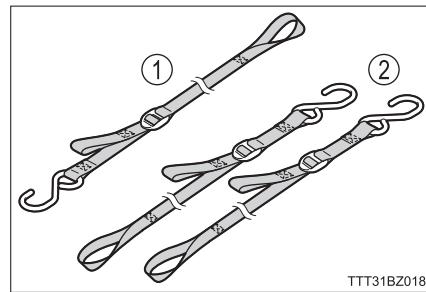
車いす固定ベルト

車いすを固定するための車いす固定ベルトは次のように使用してください。

車いす固定ベルトを車両へ取り付けるときは

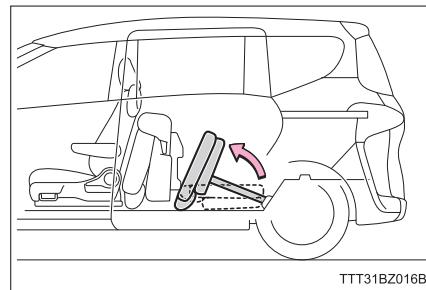
- 1 車いす固定ベルトをラゲージルームから取り出す

- ① 車いす固定ベルト A (1 本)
② 車いす固定ベルト B (2 本)



- 2 助手席側セカンドシートを折りたたむ (→ P.35, 標準車取扱書「セカンドシート」)

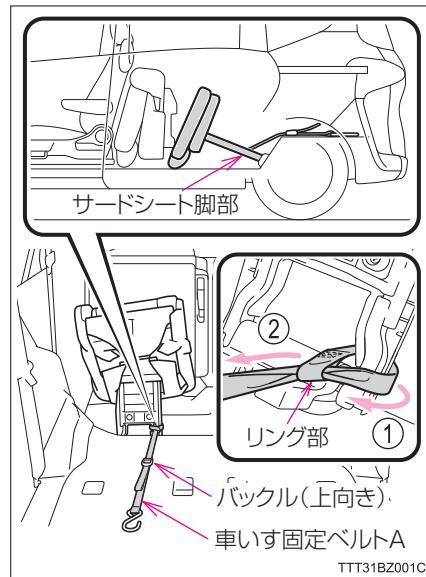
- 3 助手席側サードシートを引き起こした状態にする (→ 標準車取扱書「シートアレンジ」)



4 車いす固定ベルト A を助手席側 サードシート脚部に取り付ける

- ① 車いす固定ベルト A のリング部をサードシート脚部に通す
- ② 車いす固定ベルト A をリング部に通して引っ張り、確実に取り付ける

バックルが上側を向いていることを確認します。（バックルが下側を向いている場合は、車いす固定ベルトの取り付けをやり直してください）



TTT31BZ001C

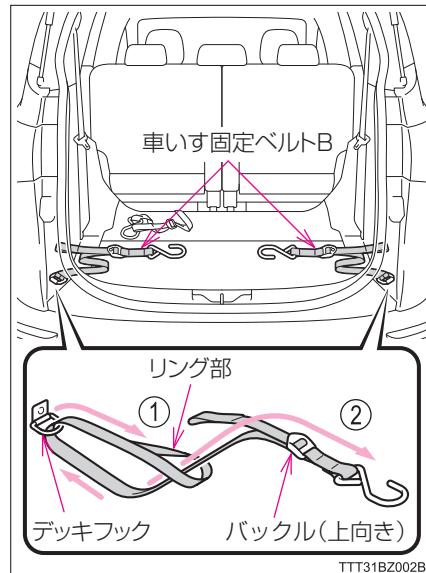
5 助手席側サードシートを格納する（→標準車取扱書「シートアレンジ」）

6 助手席側セカンドシートを着座状態にもどす（→標準車取扱書「セカンドシート」）

7 車いす固定ベルト B を取り付ける

- ① 車いす固定ベルト B のリング部をデッキフックに通す
- ② 車いす固定ベルト B をリング部に通して引っ張り、確実に取り付ける

バックルが上側を向いていることを確認します。（バックルが下側を向いている場合は、車いす固定ベルトの取り付けをやり直してください）

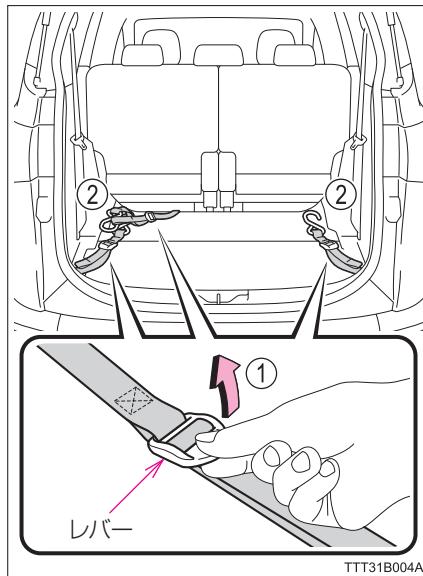


TTT31BZ002B

車いすをラゲージルーム内に収納・固定するときは

ラゲージルーム内中央に何も置かれていない状態にします。

- ① すべての車いす固定ベルトのバックルのレバーを引き上げて車いす固定ベルトをゆるめ、十分にのばす
- ② 車いす固定ベルトをラゲージルームのすみによけておく

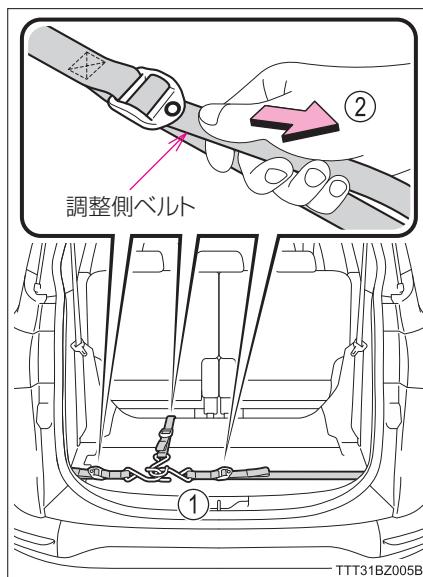


TTT31B004A

車いすをラゲージルーム内に収納・固定しないときは

車いす固定ベルトがラゲージルーム外に出ないようにします。

- ① すべての車いす固定ベルトのフックをそれぞれ引っかける
- ② 調整側ベルトを引っ張り、フックが走行中にはずれないようにする



TTT31BZ005B

□ 知識

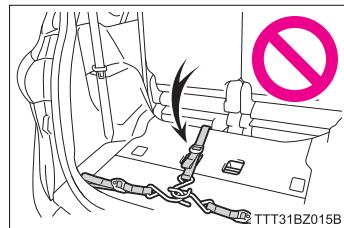
■ 車いす固定ベルトについて

- 車いすを収納するときは、車いす固定ベルトをラゲージルーム内中央に放置しておかいでください。車いす収納時、車いすの下敷きになり、車いす固定ベルトの操作が困難になります。
- 車いすを収納・固定しないときは、車いす固定ベルトをバックドアに挟んだりしないようにするため、「車いすをラゲージルーム内に収納・固定しないときは」の方法でフックを引っかけてください。（→ P.43）

⚠ 注意

■ サードシートを格納状態から着座状態にもどすときは

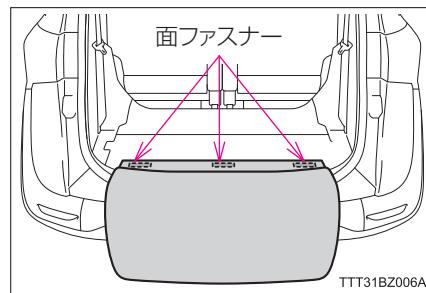
車いす固定ベルトが床面ロック部にかかっていないことを確認してください。
車いす固定ベルトの切断およびロック部の破損のおそれがあります。



ガードマット

車いす収納時、バンパーの傷付きを防止します。

ガードマットの面ファスナーをラ
ゲージルーム床面に貼り付ける



3

手動車いす用収納装置（電動式）（B タイプ）

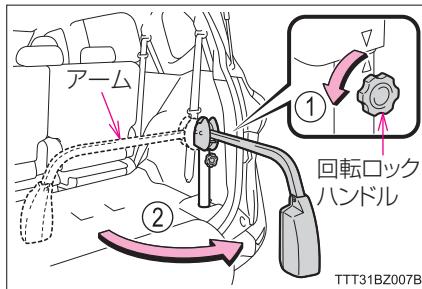
手動車いす用収納装置は 30kg までの車いすを吊り上げることができ、車いすのラゲージルームへの出し入れを補助します。

セットのしかた

1 アームを回転させる

- ① 回転ロックハンドルを左にまわし、アームの回転ロックを解除する

回転ロックハンドルはまわし過ぎないようにしてください。（まわし過ぎると回転ポストからはずれます）



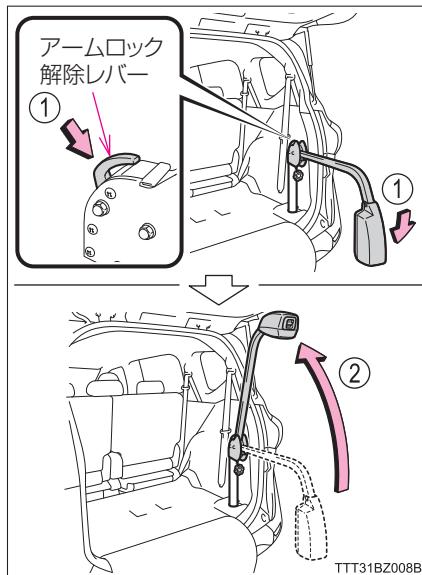
- ② アームをラゲージルーム外にいっぽいまで回転させる

2 アームを起こす

- ① アームを少し押し下げながらアームロック解除レバーを押さえてロックを解除する

- ② アームを起こす

アームをいっぽいまで起こすと“カチン”と音がして自動的にロックされます。



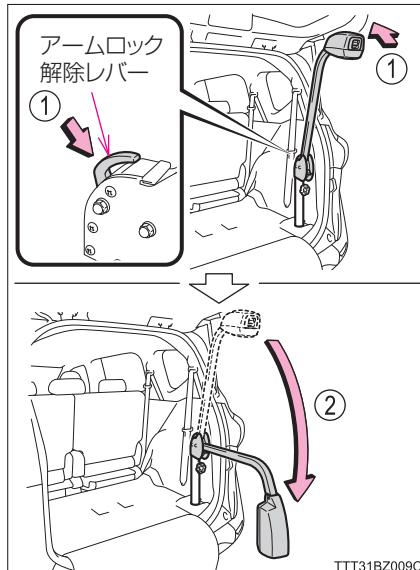
格納のしかた

① アームをたたむ

- ① アームを少し持ち上げながらアームロック解除レバーを押さえてロックを解除する

② アームをたたむ

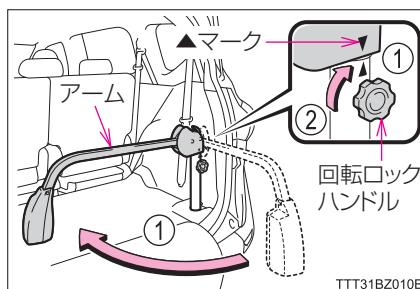
アームをいっぱいまでたたむと“カチン”と音がして自動的にロックされます。



② アームを固定する

- ① アームを▲マークが合う位置までラゲージルーム内に回転させる

- ② 回転ロックハンドルを右にまわし、アームの回転をロックさせる

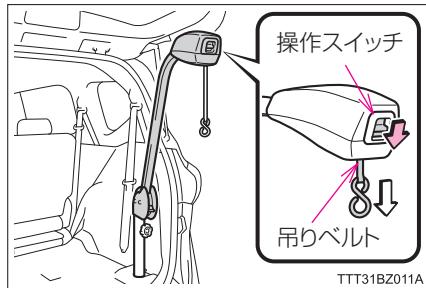


車いすの吊り上げ

① 手動車いす用収納装置をセットした状態にする（→ P.46）

② 操作スイッチを下に押し続け、車いすに吊りベルトがかけられる長さまで、吊りベルトを引き出す

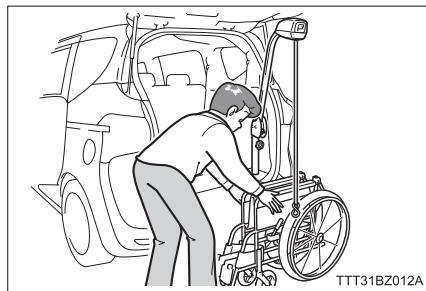
- ・十分な長さまで吊りベルトを引き出したら、スイッチから指を離してください。
- ・吊りベルトは引き出しすぎないでください。（→ P.49）



TTT31BZ011A

③ 車いすを折りたたみ、車いすの前輪を車両左側にして、後輪のブレーキを両輪ともかける

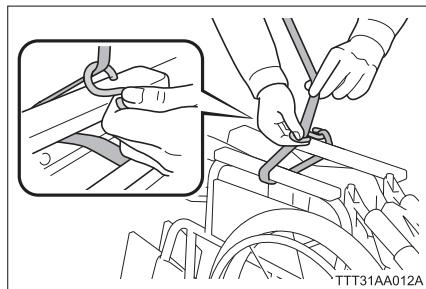
- ・車いすのブレーキのかけ方、折りたたみ方については、お使いの車いすの取扱説明書を参照してください。
- ・「収納可能な車いすのサイズ」を確認してください。（→ P.39）



TTT31BZ012A

④ 吊りベルトを車いすにセットする

車いすの前後のバランスがとりやすくなるように、吊りベルトをアームレストに通し、吊りベルトにフックを引っかけます。

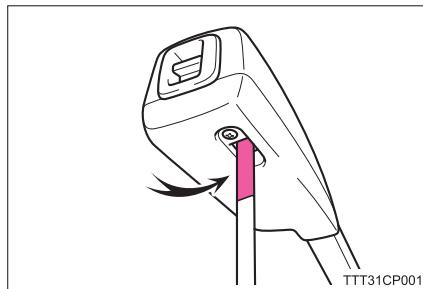


TTT31AA012A

□ 知識

■ 吊りベルトの引き出し目安について

フックが地面に到達する直前まで吊りベルトを引き出すと、吊りベルトを車いすにセットする操作が容易になります。ただし、赤色テープが出てきたら、それ以上操作スイッチを下に押し続けれないでください。操作スイッチを下に押しても吊りベルトが巻き上がる場合、「吊りベルトの出・入が逆の作動をしたときは」の操作をしてください。（→ P.66）



■ 吊りベルトが引き出しにくいときは

操作スイッチを下に押したままフックを持って吊りベルトを下に引くと、吊りベルトが容易に引き出せます。

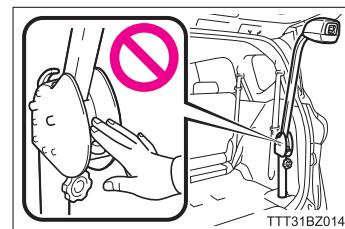
■ 車いすについて

ハンドル、ステップが折りたためる車いすをお使いの場合、それらを折りたためることにより車いすの収納が容易になります。

⚠ 警告

■ 手動車いす用収納装置を使用するときは

- 吊りベルトを車いすのアームレストにセットする位置は、できるだけ車いすの前後のバランスがとれる位置にしてください。
前後のバランスがとれないと、吊り上げるとき、車いすの姿勢が不安定になり、車いすが体にあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- アームの起立・格納をするときは、可動部付近に手をふれないでください。
手を挟み、けがをするおそれがあります。



⚠ 注意

■ 故障・損傷を防ぐために

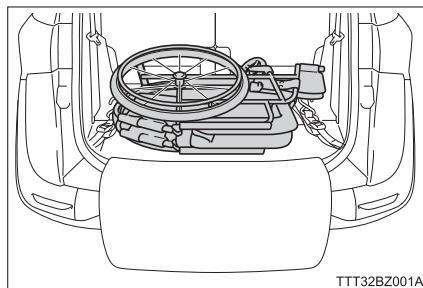
- アームの起立・格納をするときは、アームを持ちながらゆっくりと行ってください。また、アームを起こしたときは、確実にロックしたことを確認してから手を離してください。
- 手動車いす用収納装置で車いす以外のものを吊り上げないでください。吊り上げたものが落下して車両を損傷したり、手動車いす用収納装置が故障するおそれがあります。
- 車いすを吊り上げる際、「収納可能な車いすのサイズ」を確認してください。
(→ P.39)
手動車いす用収納装置の故障および車いすの収納・固定が困難になり、車両を傷付けるおそれがあります。
- 車いすを吊り上げる際、吊りベルトがぶれる部位に吊りベルトが傷付くような鋭利な突起物などがないことを確認してください。
吊りベルトが損傷するおそれがあります。
- 手動車いす用収納装置を固定後、アームを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。
▲マークが合う位置で確実にアームを固定しないと、走行中、アームが動き、車いすや車両などを損傷するおそれがあります。
- 吊りベルトを車いすのアームレストにセットする位置は、できるだけ車いすの前後のバランスがとれる位置にしてください。
前後のバランスがとれないと、吊り上げるとき、車いすの姿勢が不安定になり、車いすや車両を傷付けるおそれがあります。
- 車いすを収納する前に、必ずバックドアが全開になっていることを確認してください。
全開になっていないと、車いす収納時、バックドアとアームがあたり、損傷するおそれがあります。

収納のしかた

車いすをラゲージルーム内に収納するときは、車いす固定ベルトを「車いすをラゲージルーム内に収納・固定するときは」の状態にしてから行ってください。 (→ P.43)

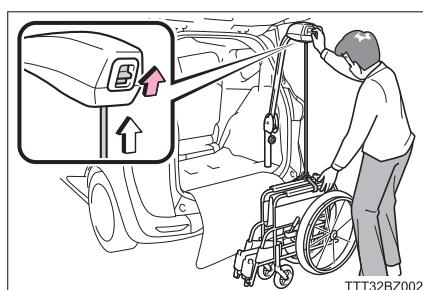
◆ A タイプ

- 1 ガードマットがセットしてあることを確認する (→ P.45)
- 2 車いすのブレーキを両輪ともかけ、車いすを折りたたんだ状態で収納する



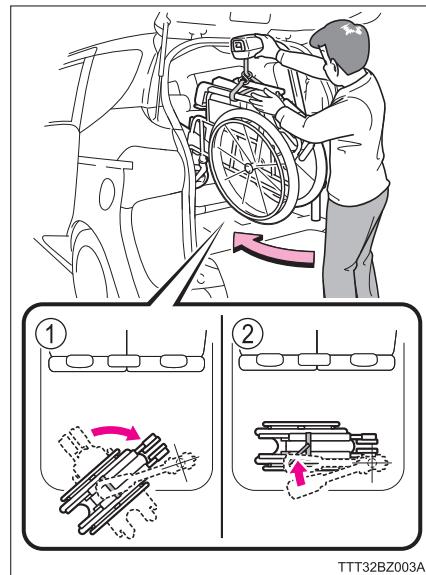
◆ B タイプ

- 1 ガードマットがセットしてあることを確認する (→ P.45)
- 2 操作スイッチを上に押し続け、吊りベルトを巻き上げ、車いすを吊り上げる
車いすに手を添えて吊り上げてください。



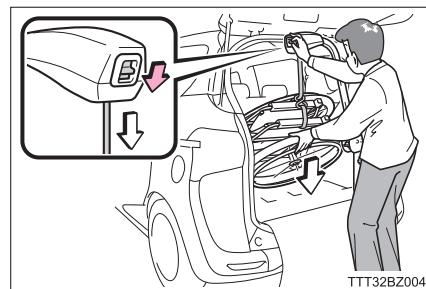
3 車いすをアームごとラゲージルーム内に回転・収納する

- ① 車いすの前輪側をラゲージルーム内に入れる
- ② 前輪側が完全にラゲージルーム内に入ったら後輪側をラゲージルーム内に入れる



TTT32BZ003A

4 操作スイッチを下に押し続け、吊りベルトを引き出し、車いすをラゲージルーム床面に降ろす
車いすに手を添えて降ろしてください。



TTT32BZ004

5 吊りベルトを車いすのアームレストからはずす

6 操作スイッチを上に押し続け、吊りベルトをいっぱいまで巻き上げる

車いすをラゲージルーム外に出すときは

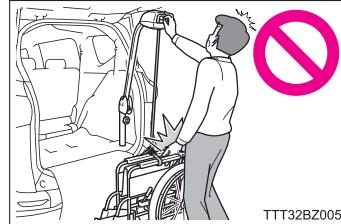
収納したときの逆の手順で行います。

⚠ 警告

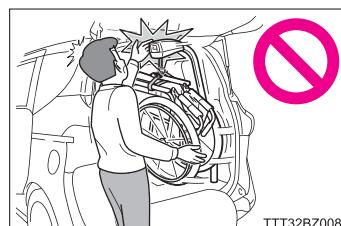
■車いすを収納するときは

車いすを収納するときは、手などを挟んだり、車いすや車両に体があたらないように注意してください。

- 車いすに手を添えるとき、車いすのアームレスト部に指を挟まないように注意してください。



- アームとバックドア開口部で手を挟まないように注意してください。



⚠ 注意

■損傷・故障を防ぐために

吊りベルトをいっぱいまで巻き上げたら、それ以上操作スイッチを上に押し続けないでください。

手動車いす用収納装置が故障するおそれがあります。

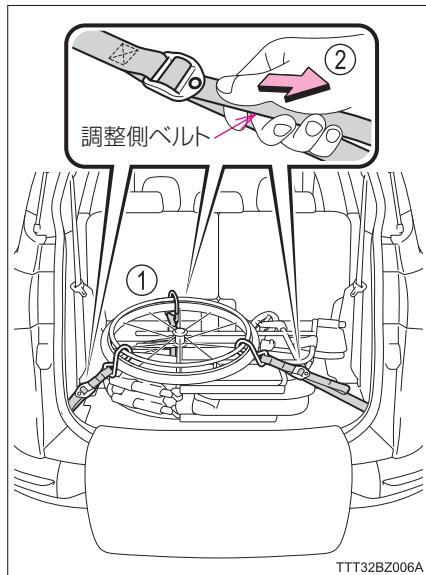
固定・解除のしかた

車いすの固定・解除については次のように行ってください。

固定のしかた

車いす固定ベルトのフックを次の場所を目安に引っかけます。

- ① 車いす固定ベルトのフックを車いす後輪のハンドリムに引っかける（3本とも）
- ② 車いす固定ベルトの調整側ベルトを引っ張り、車いすを確実に固定する（3本とも）



TTT32BZ006A

固定後、走行する前に

- 1 手動車いす用収納装置を格納する（B タイプのみ→ P.47）

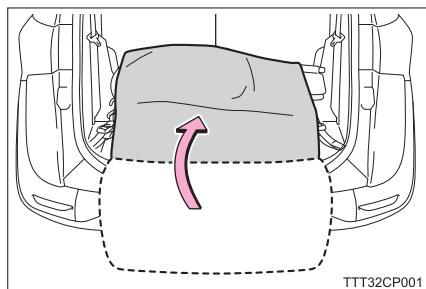
- 2 ガードマットをラゲージルーム内に収納する

ガードマットは車いすにかぶせるようにするか、取りはずしてください。

- 3 バックドアを閉める

- ・ バックドアを閉めるときは、車いすなどを挟み込まないことおよび手動車いす用収納装置がバックドアにあたらないことを確認しながら、ゆっくりと閉めてください。

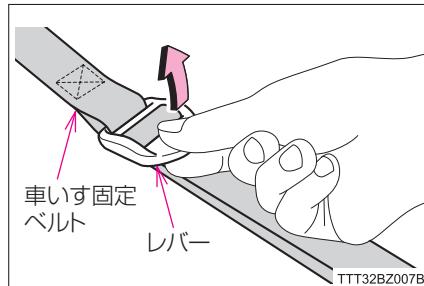
- ・ B タイプにお乗りの方で、ただちに走行しないときはエンジン〈ハイブリッドシステム〉を停止します。



TTT32CP001

解除のしかた

- 1 車いす固定ベルトのバックルのレバーを引き上げ、車いす固定ベルトをゆるめる（3本とも）



- 2 車いすを手で支えながら、車いす固定ベルトのフックを車いすから取りはずす（3本とも）

⚠ 警告

■車いすを固定したときは

固定後、車いすを前後左右にゆすり確実に固定されていることを確認してください。

急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに車いすが車室内にとび込み、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■損傷を防ぐために

● 固定後、車いすを前後左右にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

- ・ バックドアを閉めるとき、バックドアと車いすがあたるおそれがあります。
- ・ 走行中に車いすがセカンドシートやバックドアなどにあたり、車いすや車両を損傷するおそれがあります。

● 車いす固定ベルトにねじれがないこと、鋭利な角部にあたっていないことを確認してください。

車いす固定ベルトを正しくかけないと、車いす固定ベルトが切れるおそれがあります。

● バックドアはゆっくりと閉めてください。

バックドアを勢いよく閉めると、車いすや手動車いす用収納装置がバックドアなどにあたり、損傷するおそれがあります。

● 車いす固定後、セカンドシートを操作するときは、固定した車いすにあてないように注意してください。セカンドシートや車いすが損傷するおそれがあります。

デッキボードを開閉するときは

デッキアンダートレイを使用するときやパンクしたときなど、デッキボードを開閉するときは、次のように行ってください。

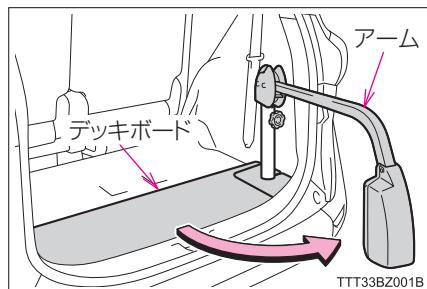
デッキボードの取り扱いについては、標準車取扱書の「ラゲージルーム内装備」を併せて参照してください。

デッキボードを開閉する前に

- 1 車いすがラゲージルーム内に収納・固定されているときは、車いすの固定を解除し、車いすをラゲージルーム外に出す（→ P.55）
- 2 車いす固定ベルトをラゲージルームのすみによけておく（→ P.43）

デッキボードを開閉するときは（B タイプ）

- 1 手動車いす用収納装置のアームをラゲージルーム外にいっぱいまで回転させる（→ P.46）



- 2 デッキボードを開閉する

デッキボードを取りはずすときは、回転ポストにあたらないように取りはずします。

万一の場合には

4

4-1. パンクしたときは

応急用タイヤの取り出し
(B タイプ) 58

4-2. 故障かな?と

お考えになる前に

ヒューズの交換 (B タイプ) 59

助手席回転チルトシートが
動かないときは 61

助手席回転チルトシートが
車外に出た状態で
動かないときは 62

手動車いす用収納装置
(電動式) が動かないときは
(B タイプ) 66

応急用タイヤの取り出し (B タイプ)

応急用タイヤを取り出す際、デッキアンダートレイを取りはずすときは、次のように行います。

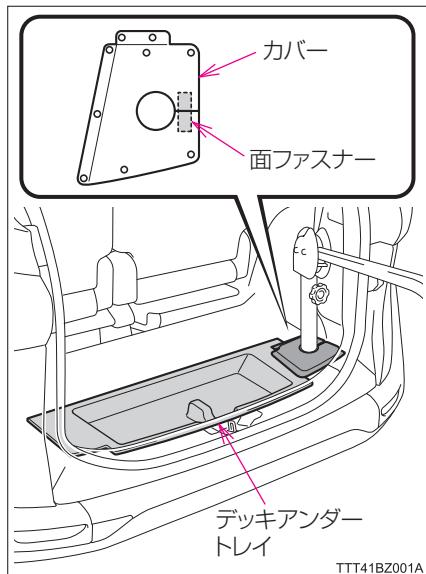
応急用タイヤの取り扱いについては、標準車取扱書の「パンクしたときは」を併せて参照してください。

デッキアンダートレイを取りはずすときは

① デッキボードを取りはずす (→ P.56)

② 回転ポスト下部カバーの面ファスナーをはがし、デッキアンダートレイを取りはずす

取り付けるときは逆の手順で行います。



ヒューズの交換 (B タイプ)

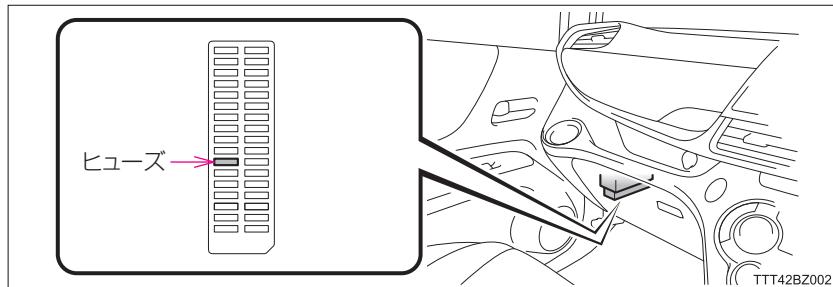
手動車いす用収納装置の操作スイッチを操作しても、吊りベルトの巻き上げ・引き出しができないときは、ヒューズ切れが考えられます。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ位置

■ 助手席側ヒューズボックス

助手席側ヒューズの点検・交換方法については、標準車取扱書の「ヒューズの点検・交換」をお読みください。



ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
DOOR D	20A	手動車いす用収納装置

 **知識****■ヒューズを交換したあとは**

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換しても手動車いす用収納装置の吊りベルトの巻き上げ・引き出しができないとき

 **警告****■車の故障や火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

 **注意****■ヒューズ切れを防ぐために**

→ P.40

助手席回転チルトシートが動かないときは

次の処置をしてください。

回転スライドレバー・チルトボタンの確認

- 助手席回転チルトシートの回転スライドレバーおよびチルトボタン操作時、引っかかりなどがなく正常に操作できることを確認してください。
- 複数のレバー・ボタンを同時に操作していないことを確認してください。 (→ P.24)

助手席回転チルトシートの確認

- 助手席回転チルトシートが回転しないときは、次のことを確認してください。
 - ・助手席側セカンドシートが折りたたまれてない (→ P.22)
 - ・車外に出すとき: シートがいちばん前まで移動している (→ P.25)
 - ・車内にもどすとき: シートのチルトをもどし終わっている (→ P.30)
- 助手席回転チルトシートが下にチルトしないときは、シートが車外に回転完了していることを確認してください。 (→ P.27)
- 助手席回転チルトシートが前後スライドしないときは、シートが車内に完全に回転していることを確認してください。 (→ P.32)

回転スライドレバー・チルトボタンおよび助手席回転チルトシートの確認をしても動かない場合

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

修理が完了するまで、絶対に助手席回転チルトシートを使用しないでください。

■車内に入った状態で動かない場合

そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。

■車外に出た状態で動かない場合

P.62 以降の要領で助手席回転チルトシートを車内にもどし、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。

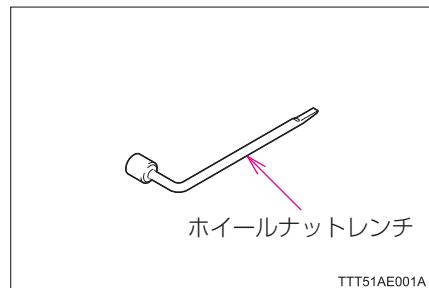
助手席回転チルトシートが車外に出た状態で動かないときは

回転スライドレバーおよびチルトボタンを操作しても助手席回転チルトシートが動かない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 万一、助手席回転チルトシートのチルトがもどせなくなったときや回転スライドレバーが引けなくなったときは、助手席ドアを閉めることができません。この項目に記載されている要領で車内に格納してください。
- 助手席回転チルトシートに座っている乗員がいる場合は、乗員を安全な場所に移動させてから作業を行ってください。

使用工具について

この項目の操作をするときは、ホイールナットレンチを使用します。
(ホイールナットレンチの搭載位置
→標準車取扱書の「パンクしたときは」)



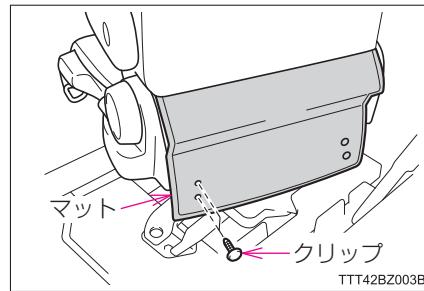
助手席回転チルトシートを車内にもどす前に

操作前に、次の状態を確認してください。

- 助手席ドアが全開になっていること
- セカンドシートに乗員がいないこと
- 助手席側セカンドシートが折りたたまれていないこと
- グローブボックスのフタが閉まっていること
- 買い物フックに荷物がかかっていないこと
- 助手席回転チルトシートの下および周辺に荷物などが置かれていないこと

助手席回転チルトシートのチルトがもどせなくなったとき

- 1 助手席回転チルトシート左後部のクリップ2本を取りはずし、マットをめくる



- 2 助手席回転チルトシートを支えながら、ホイールナットレンチでピンを押し、チルト用ロックを解除する

助手席回転チルトシートのチルトがもどり始めたら、ホイールナットレンチを引き抜きます。



助手席回転チルトシートのチルトはもどせるが回転スライドレバーが引けなくなったとき

操作前に助手席回転チルトシートのチルトをもどし終わっていることを確認してください。

確実にチルトをもどし終わっていないと、回転操作ができません。

1 助手席回転チルトシート左後部のクリップ2本を取りはずし、マットをめくる(→P.63)

2 ホイールナットレンチで助手席回転チルトシートの回転用ロックを押しながら、シートを中間ロック位置まで回転させる

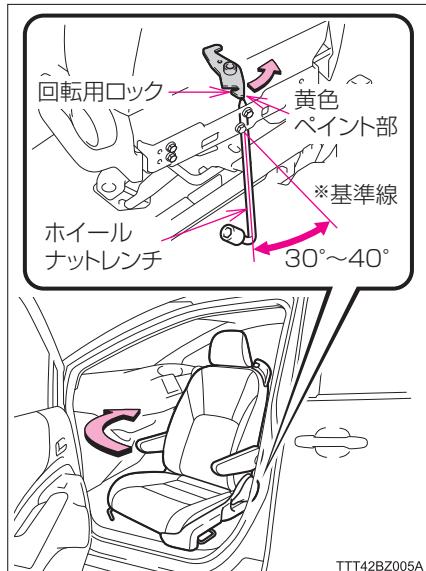
① 助手席回転チルトシート下部とスライドパネルのすき間から、右側のボルトを目印に、基準線※に対して約30°~40°方向にホイールナットレンチを挿し込む

※基準線：助手席回転チルトシートに対して垂直方向の線

② 回転用ロックを反時計まわりの方向に押しながら、助手席回転チルトシートを回転させる

- ・回転が始まったら、ホイールナットレンチを引き抜きます。
- ・回転用ロックの先端部は黄色にペイントされています。

3 **2**の方法で再度ホイールナットレンチで回転用ロックを解除しながら、助手席回転チルトシートをさらに車内に回転させる



□ 知識

■ 回転用ロックについて

ホイールナットレンチで回転用ロックを反時計まわりの方向に押しながら、助手席回転チルトシートを回転させてください。シートの回転が始まる前にホイールナットレンチを引き抜くと、シートを回転させることができません。

■ 紛失を防ぐために

取りはずした部品は袋に入れるなどして、紛失しないようにしてください。

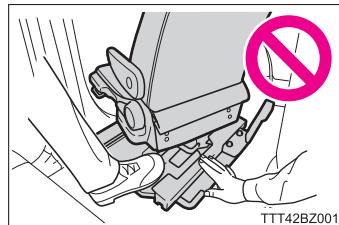
▲ 警告

■ 修理が完了するまでは

助手席回転チルトシートに座らないでください。

■ この項目の操作をするときは

- 助手席回転チルトシート格納スペースに手や足を入れないでください。
シート可動部などで手や足などを挟み、けがをするおそれがあります。



- 工具を使用したあとは、所定の場所に確実に保管してください。
車室内などに放置すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

△ 注意

■ 破損・損傷を防ぐために

- 助手席回転チルトシートを車内にもどすときは、次のことをお守りください。
お守りいただかないシートやものが破損・損傷するおそれがあります。
 - ・ グローブボックスのフタを閉める
 - ・ 買い物フックに荷物がかかった状態で操作しない
 - ・ シートの下および周辺に荷物などが置かれた状態で操作しない
- ホイールナットレンチを使用して助手席回転チルトシートのチルトをもどすときは、シートを支えながらロックを解除し、シートのチルトがもどり始めたらすみやかにホイールナットレンチを引き抜いてください。
シートにホイールナットレンチが挟まれ、損傷するおそれがあります。

手動車いす用収納装置（電動式）が動かないときは（B タイプ）

次の処置をしてください。

ヒューズの点検・交換

ヒューズを点検・交換してください。（→ P.59）

ヒューズの点検・交換をしても動かない場合

トヨタ販売店で点検を受けてください。

吊りベルトの出・入が逆の作動をしたときは

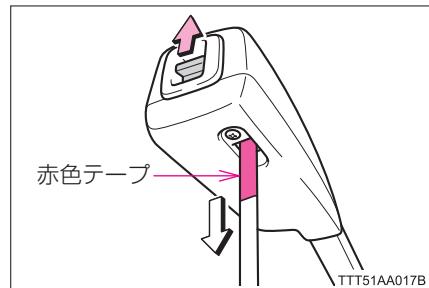
吊りベルトを引き出すとき、赤色テープが出てきたあとも、さらに操作スイッチを下に押し続けると、その後、吊りベルトが巻き上がり始めます。（操作スイッチを上に押し続けると、吊りベルトが引き出されます）

■ 正常作動へのもどし方

操作スイッチを上に押し続け、一度吊りベルトを出しきる

吊りベルトが巻き上がり始めたら、正常な状態になります。

（スイッチ操作方向と吊りベルトの動く方向が同じになら正常です）



点検・整備項目

5

5-1. 点検・整備項目

定期点検整備 68

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、巻末の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

点検整備項目	点検時期			交換時期	備考		
	日	自家用車					
		12か月ごと	24か月ごと				
	常点検						
助手席回転チルトシート	レバーおよびボタンの操作						
	回転スライドレバー	<input type="radio"/>			引っかかりがないこと		
	スライドレバー	<input type="radio"/>			引っかかりがないこと		
	チルトボタン	<input type="radio"/>			引っかかりがないこと		
	シートロック状態						
	チルトロック	<input type="radio"/>			著しいガタがないこと		
	回転ロック	<input type="radio"/>			著しいガタがないこと		
	スライドロック	<input type="radio"/>			著しいガタがないこと		
	インターロックの状態						
	チルト防止インターロック	<input type="radio"/>			車外に回転完了状態以外では、チルトできないこと		
手動車いす用収納装置	回転防止インターロック	<input type="radio"/>			チルト状態では、回転できないこと		
	操作スイッチの作動状態						
	収納装置取付部	<input type="radio"/>			ゆるみ・ガタ・損傷がないこと		
	吊りベルトの傷・ほつれ	<input type="radio"/>			傷・ほつれが始まったら交換		

* : 空欄については点検および交換の必要はありません。

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	70
五十音順さくいん.....	72

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

助手席回転チルトシートについて



助手席回転チルトシートが回転できない・途中で停止する

- 助手席側セカンドシートが折りたたまれていませんか？（→ P.22）
- 助手席回転チルトシートの前後位置がいちばん前ですか？（→ P.25, 28）
- 助手席回転チルトシート回転時の手の位置・力のかけ方は合っていますか？（→ P.28, 33）
- 助手席回転チルトシートのチルトをもどし終わっていますか？（→ P.30, 33）



助手席回転チルトシートがチルトできない・途中で停止する

- 助手席回転チルトシートが回転完了位置でロックされていますか？（→ P.27, 28）
- 助手席回転チルトシートが下にチルトし始めてすぐに、チルトボタンから指を離していませんか？（→ P.28）
- 助手席回転チルトシートのチルトをもどし終わる前に車内に回転させていませんか？（→ P.33）



助手席回転チルトシートがロックしない

- 回転スライドレバーを操作したまま助手席回転チルトシートを回転させていませんか？（→ P.28, 33）
- 助手席回転チルトシートのチルトが完了する前にチルトボタンから指を離しましたか？（→ P.28, 33）



助手席回転チルトシートを車外に回転させている途中でチルトが下がった

- 助手席回転チルトシートが車外に回転完了位置まで回転させる前にチルトボタンを押していませんか？（→ P.28）



助手席回転チルトシートを下にチルトさせたとき、同時にシートが回転してしまう

- 車外の回転完了位置より少し手前で、助手席回転チルトシートを下にチルトさせていませんか？（→ P.28）



回転スライドレバー・チルトボタンが固くて操作できない

- シート回転方向に力を加えた状態で回転スライドレバーを引いていませんか？（→ P.28）
- 助手席回転チルトシートのチルトをもどす方向に力を加えた状態でチルトボタンを押していませんか？（→ P.34）
- 助手席回転チルトシートの前端に座っていませんか？（→ P.29）

手動車いす用収納装置（電動式）について（B タイプ）



手動車いす用収納装置（電動式）が動かない

- ヒューズが切れていませんか？（→ P.59）



吊りベルトの出・入が逆の動きをした

- 吊りベルトを引き出しすぎていませんか？（→ P.66）

五十音順さくいん

あ

アームレスト	19
安全なドライブのために	
車いす・手動車いす用収納装置 (B タイプ) の固定について ...	12
助手席回転チルトシートに ついて 8	

お

応急用タイヤの取り出し	58
-------------------	----

か

ガードマット	45
回転スライドレバー	25, 31

く

車いす	
固定・解除のしかた	54
収納・固定前の準備	38
収納可能なサイズ	39
収納のしかた	51
ラゲージルーム外に 出すときは	52
ラゲージルーム内に収納・固定 しないときは	43
ラゲージルーム内に収納・固定 するときは	43
車いす固定ベルト	
車両へ取り付けるときは	41

こ

故障かな? とお考えになる前に	
手動車いす用収納装置 (電動式) が動かないときは (B タイプ)	66
助手席回転チルトシートが 動かないときは	61

助手席回転チルトシートが 車外に出た状態で 動かないときは	62
ヒューズの交換 (B タイプ)	59

さ

サードシート	39
--------------	----

し

収納可能な車いすのサイズ	39	
手動車いす用固定装置		
解除のしかた	55	
車いす固定ベルト	41	
固定後、走行する前に	54	
固定のしかた	54	
車両へ取り付けるときは	41	
手動車いす用収納装置 (電動式)		
アーム	46	
アームロック解除レバー	46	
回転ロックハンドル	46	
格納のしかた	47	
車いすの吊り上げ	48	
故障かな? とお考えに なる前に	66	
収納のしかた	51	
セットのしかた	46	
操作スイッチ	48	
吊りベルト	48	
吊りベルトの出・入が 逆の作動をしたときは	66	
ラゲージルーム外に 出すときは	52	
使用工具について		62
乗車人数		39

助手席回転チルトシート

- アームレスト 19
- 動かないときは 61
- 回転スライドレバー 25, 31
- 故障かな？とお考えに
なる前に 61
- 車外に出すときは 25
- 車外に出た状態で
動かないときは 62
- 車内にもどすときは 30
- スライドレバー 14
- 操作をするときは 21
- 正しい乗車姿勢 20
- 調整 14
- チルトが
もどせなくなったとき 63
- チルトグリップ 27, 30
- チルトはもどせるが
回転スライドレバーが
引けなくなったとき 64
- チルトボタン 27, 30
- ヘッドレスト 17
- リクライニングレバー 14

す

- スライドレバー 14

せ

- セカンドシート
助手席側セカンドシート 35

た

- 正しい乗車姿勢 20

ち

- チルトグリップ 27, 30
- チルトボタン 27, 30

て

- 定期点検整備記録簿 卷末
- デッキボードの開閉 56
- 点検・整備項目
定期点検整備 68

は

- パンクしたときは
応急用タイヤの取り出し 58

ひ

- ヒューズ (B タイプ)
位置 59
- ヒューズ切れを防ぐために 40

へ

- ヘッドレスト 17

ま

- 万一の場合には
故障かな？とお考えに
なる前に 59
- パンクしたときは 58

ら

- ラゲージルーム内装備
デッキボードを開閉
するときは 56

り

- リクライニングレバー 14

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願ひいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

0800-700-7700
フリーコール

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp> にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
<http://toyota.jp/recall/index.html> にて掲載して
おります。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

トヨタ ウェルキャブシリーズ

W-082



M 52J83

01999-52J83

NAT-2019年7月10日

2018年9月11日 初版

2019年7月17日 2版

シエンタ

助手席回転チルトシート車